

各教科の正答率、問題の内容及び所見・解説

7 英語（学校選択問題）

(1) 正答率

問題	配点	正答率		一部正答率		誤答率		無答率		通過率 率 = $\frac{\text{得点計}}{\text{人数} \times \text{配点}}$ (%)	
		数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)		
1	問題 1	2	296	82.9	0	0.0	61	17.1	0	0.0	82.9
	問題 2	2	351	98.3	0	0.0	6	1.7	0	0.0	98.3
	問題 3	2	341	95.5	0	0.0	16	4.5	0	0.0	95.5
	問題 4	2	293	82.1	0	0.0	63	17.6	1	0.3	82.1
	問題 5	2	287	80.4	0	0.0	69	19.3	1	0.3	80.4
	問題 6 (1)	3	174	48.7	121	33.9	61	17.1	1	0.3	66.9
	問題 6 (2)	3	95	26.6	60	16.8	169	47.3	33	9.2	36.0
	問題 6 (3)	3	69	19.3	105	29.4	150	42.0	33	9.2	35.5
	問題 7 (1)	3	339	95.0	0	0.0	18	5.0	0	0.0	95.0
	問題 7 (2)	3	306	85.7	0	0.0	51	14.3	0	0.0	85.7
問題 7 (3)	3	284	79.6	0	0.0	73	20.4	0	0.0	79.6	
2	問 1	3	318	89.1	0	0.0	39	10.9	0	0.0	89.1
	問 2	4	55	15.4	206	57.7	84	23.5	12	3.4	47.1
	問 3	4	346	96.9	0	0.0	11	3.1	0	0.0	96.9
	問 4	4	198	55.5	15	4.2	134	37.5	10	2.8	58.6
	問 5 (1)	3	173	48.5	0	0.0	184	51.5	0	0.0	48.5
	問 5 (2)	3	281	78.7	0	0.0	74	20.7	2	0.6	78.7
	問 5 (3)	3	261	73.1	0	0.0	93	26.1	3	0.8	73.1
問 6	4	69	19.3	144	40.3	103	28.9	41	11.5	42.3	
3	問 1	3	54	15.1	3	0.8	265	74.2	35	9.8	15.7
	問 2	3	172	48.2	36	10.1	138	38.7	11	3.1	54.4
	問 3	3	310	86.8	0	0.0	44	12.3	3	0.8	86.8
	問 3	3	264	73.9	0	0.0	87	24.4	6	1.7	73.9
	問 3	3	215	60.2	0	0.0	134	37.5	8	2.2	60.2
	問 4	3	143	40.1	0	0.0	212	59.4	2	0.6	40.1
	問 5	4	146	40.9	38	10.6	61	17.1	112	31.4	48.0
	問 6	3	131	36.7	55	15.4	94	26.3	77	21.6	45.6
	問 7 (1)	3	33	9.2	0	0.0	184	51.5	140	39.2	9.2
	問 7 (2)	3	42	11.8	5	1.4	123	34.5	187	52.4	12.5
問 7 (3)	3	56	15.7	12	3.4	162	45.4	127	35.6	17.1	
4		10	28	7.8	308	86.3	15	4.2	6	1.7	57.5

(小数第2位を四捨五入しているため、%の合計が100にならない場合がある。)

(2) 問題の内容

1 会話やまとまりのある英語を聞いて、概要や要点を聞き取る。

問題 1～3 兄弟の写った写真や好きな季節、授業がおこなわれる教室の場所について等、日常的な場面の会話を聞いて、絵や図の中から、質問に対する答えとして適切なものを選ぶ。

問題 4、5 友人の家に電話をする場面や、買い物の一場面といった、「ある場面」を説明する英文を聞いて、質問に対する答えとして適切な表現を選ぶ。

問題 6 Emmaは先週末に歴史博物館を訪れたことについて、Satoshiと会話をしている。その会話を聞き取り、内容について英語で答える。

問題7 ALTのMs. Keanが、登山の経験を通じて知ったパークボランティアの活動についてスピーチを英語でおこなっている。そのスピーチを聞き取り、内容について質問に対する答えとして適切なものを選ぶ。

2 ArisaとMakoto、ALTのMs. Smithが、自転車の安全な利用について話をしている。Makotoが自転車の危険な運転について話をしたことをきっかけに、Arisaは自転車安全利用五則についてのスピーチをおこなうとともに、Ms. Smithはイギリスの自転車トレーニングプログラムについて生徒に話すこととなった。そして、授業後の3人の会話において、Makotoが自転車専用通行帯について紹介した上で、「道路上ではみんなが、他の人に親切にすべきだ」と話した。このような3人の会話やスピーチ等から、あらすじや要点を読み取り、場面に応じて英語で適切に表現する。

3 Saoriはソーラーホームシステム(SHS)について英語で文章を書いた。彼女がSHSに興味をもったのは、ニュースで無電化地域について知ったことがきっかけだった。彼女はSHSが無電化地域でどのように活用されているか、また無電化地域に住む人々がどのようにSHSを購入しているかについて調べた。さらに、国連の報告書を調べ、SELFと呼ばれるNGOの活動を知り、ベナンにおいて太陽光発電が地域社会全体を助けている事例について学んだ。これらのことから、彼女はより安く効率的なSHSを開発するために、エンジニアになることを考え始めた。この英文を読んで、あらすじや大切な部分を読み取り、内容についての質問に答える。

4 Today AI is widely used for a lot of different purposes, such as computers and machines. Some people say that AI should be used more. What do you think about this idea? という英文に対して、賛成か反対か自分の立場を明らかにして、その理由がわかるように、記入上の注意に従って40語以上50語程度の英語で書く。

(3) 所見・解説

1 会話やまとまりのある英語を聞いて、概要や要点を聞き取る力をみようとしたものである。

問題1 会話を聞いて、その内容にあてはまる写真を選ぶ問題である。写真は駅で撮られたもので、同じくらい背が高いと言っているのが、正答はイとなる。

問題2 会話を聞いて、好きな季節を尋ねたアンケートの結果を表すグラフを選ぶ問題である。40人の生徒の半数が春を選んだので、正答はウとなる。

問題3 会話を聞いて、校舎の見取り図から英語の授業がおこなわれる教室はどこかを選ぶ問題である。その教室は2階にあり、図書室の隣であると言っているのが、正答はアである。

問題4 CindyがKenに電話をしたが、Kenは不在で7時に帰ってくるとKenの母親に言われた場面である。CindyがKenの母に何と言うかを問われているので、「あとで電話をする」というエが正答となる。

問題5 気に入ったバッグをみつけたSakiが、店員に「これをください」と言っている場面である。店員がSakiに何と言うかを問われているので、「はい、他に何か必要ですか」というアが正答である。

問題6 EmmaとSatoshiの会話を聞き取り、英語の質問に対して英語で答える問題である。

(1) Emmaの発言“I came to Japan because I was interested in Japanese history.”から、正答はshe was interested in Japanese historyとなる。誤答には、be動詞が書かれていないものや、interestingとしてしまったもの、時制が一致していないものがみられた。

(2) Emmaの発言“We stayed for three hours”と“we left the museum at noon”から、正答はat nineとなる。誤答には、前置詞が書かれていないものや、不適切な前置詞が使われていたりするものや、またthreeやnoonという聞き取れた英語からそのまま答えたりしたものも多くみられた。情報を整理して答えることが求められる。

(3) Satoshiの発言“our teacher, Mr. Fukuda, told us to make a newspaper as homework.”から、正答はto make a newspaperとなる。誤答としてto readとしてしまうものが多かったが、動詞を正確に聞き取れなかったことが原因と考えられる。また、冠詞や不定詞toが書かれていないものや、綴りの誤り等が多くみられた。

問題7 英語による指示に従って、Ms. Keanのスピーチを聞き取り、内容について英語の質問に対する

答えとして適切なものを選ぶ問題である。

- (1) Ms. Kean が富士山に登った理由を問われているので、正答はC To see the morning sun.となる。
- (2) Ms. Kean が見たボランティア活動の種類を問われているので、正答はA Checking that the mountain roads were safe.となる。
- (3) スピーチの内容と合うものを問われているので、“We are helped by a lot of people like this, though we cannot see them. So, we should help other people even when no one sees us.”という発言から、正答はBとなる。

「聞くこと」の指導においては、問題1のような短めの英語を聞くことから始め、英語を聞き取り、絵や図表等の情報につなげることに慣れさせていくことが重要である。問題4や5においては、特定の場面での表現を正確に理解することが大切である。問題6や7のようなまとまりのある英語では、概要や要点を適切に把握するために、情報を正確にメモにとる等の工夫をして、必要な情報を聞き取る力を身に付けさせたい。

2 複数のまとまりのある英文を読んで、あらすじや大切な部分を読み取り、場面に応じて英語で適切に表現する力をみようとしたものである。

問1 会話の流れと合うように、空欄を補う文を選ぶ問題である。Makoto の“but you should be careful.”の発言から、正答はイ Bikes are useful in many ways となる。

問2 自転車が車道を通行するときのルールを示した絵と合うように、空欄に適切な英語を入れ、英文を完成させる問題である。自転車は左側通行であるという内容を、of the road.につなげて英文にするので、正答はRide on the left side 等となる。適切な前置詞を用いて表現をすることが大切である。

問3 Ms. Smith のスピーチのタイトルとして、最も適切なものを選ぶ問題である。“traffic accident”や“children learn how to ride”等に注目すると、正答は、ウ Children’s bike lessons in the UK となる。

問4 単語を正しい順序に並べかえて英文を完成させる問題である。that を関係代名詞の目的格として用いた the most important thing that we have to remember が正答となる。また we have to remember that the most important thing と書くこともできる。誤答では、We have to remember the most important thing that が多くみられた。

問5 ①~④の会話と発表の内容と合うように、示された英語に続く最も適切なものを選び、英文を完成させる問題である。(1)Makoto の発言にある“I was walking on the sidewalk”や“Suddenly, a young man riding a bike almost hit me.”等から、正答はア rode his bike on the sidewalk.となる。最も多い誤答はウであった。(2) Arisa がスピーチの際に示したポスターにある“Children must wear helmets when they ride bikes.”から、正答はイ children need to wear helmets when they ride bikes.となる。多くみられた誤答はウであった。(3)子供たちがトレーニングプログラムで学習する内容を読み解くと、正答はエ about bike safety in a special program.となる。最も多い誤答はイであった。

問6 自然な会話になるように5語以上8語以内の英語を書く問題である。空欄のある英文の次の発言に、“About 30 minutes.”とあることから、空欄のある英文は「どのくらいの時間がかかったか」と質問している内容であることがわかる。そのため、正答はHow long did it take 等となる。誤答にはHow long をHow many times や How often、How far や What time 等にしたものが多くみられた。

3 まとまりのある英文を読んで、あらすじや大切な部分を読み取る力をみようとしたものである。

問1 単語を正しい順序に並べかえて英文を完成させる問題である。[]内の語句を並べかえると「ソーラーパネルによって作られた(電気が)、彼らの生活をずっと(便利に)する」となる。前半ではthe electricityを過去分詞で後置修飾する表現を、後半では動詞makeの用法をそれぞれ理解することが大切である。つまり、2つの語makesとmadeの正しい位置を選ぶことができたかが鍵となる。made by solar panels makes their lives much moreが正答となるが、誤答にはmuchの位置が誤っているものや、分詞の後置修飾句が正しく作られていないものもあった。

問2 英文の流れに合わせて、空欄にあてはまる適切な1語を英語で答える問題である。第3段落ではSHS設置の利点が述べられているが、第4段落では“But there is one problem.”と逆接の接続詞から始まっている。次に「SHS一台の価格が普通は数百ドルする」と価格についての記述が続くので、「これは電気なしで暮らす人々にとって非常に高価だ」という内容になることから、expensive等が正答

となる。前後の話の流れをしっかりとつかみたい。

問3 英文の流れと合うように、本文中の3つの空欄を補う文として適切なものを、それぞれ記号で答える問題である。□の前後をみると、「私がインターネットで発展途上の太陽エネルギーについて調べていたとき、国連の報告書を見つけた」、「この組織はSELFと呼ばれる」とある。This organizationに注目すれば、アメリカの団体について書かれている工 It was about an American group which works hard for wider use of solar energy in Africa.が正答となる。□では、前後の文「農業に携わる人々は、この期間は十分な作物を育てられなかった」、「また、この地域の人々は十分な食料がなかったので飢えていた」から、現地の人々の困窮した状況が書かれたア They were very poor because they didn't have anything to sell.が正答となる。□では、「農業に携わる人々は、長く続く乾期の間でさえ作物を育てて売ることができるようになった」、「これは太陽エネルギーで地域社会全体を助けるよい例だと思う」と続くことから、オ People are now healthier than before because they have enough food all year round.が正答となる。□では誤答として力が多かったが、前後のどこにもthe new jobが指す内容の記述はないので選ぶことができない。前後の文脈を読み取ることや、段落の内容を把握した上で必要な情報を探ることが大切である。

問4 英文の流れと合うように、空欄にあてはまる適切な1語を選ぶ問題である。空欄の前に“cheaper and more efficient”という形容詞があることがわかれば、正答は工 onesとなる。教科書の買い物の場面等にもよく用いられているI'd like a smaller one.等と同じ代名詞であることに注目したい。

問5 本文の内容に関する英語の質問に英語で答える問題である。SHSの学校における活用例は第3段落の後半に書かれている。「SHSによる電気を学校で使うことによって、生徒たちは明るい教室で勉強したり、コンピューターを使ったりすることができる」とあることから、They can study in a bright classroom and use computers.等が正答となる。

問6 本文の内容に関する日本語の質問に対して日本語で答える問題である。Beninでの農業について、太陽光発電で作られた電気がどのように農業に活かされているかが具体的に問われていることから、“the electricity is used in the machines to get water under the ground.”の「地下から水をくみ上げる機械に使われる」等が正答となる。本文から必要な情報を正確に読み取りたい。

問7 本文の内容をまとめた英文の空欄に、適切な英語をそれぞれ2語で答える問題である。正答例としては、(1)については、本文の“About 54% of them lived in Africa”から、more than等となる。(2)については、本文には“some people in the world are too poor to buy an SHS”とあり、「貧しくてSHSを購入できない人もいる」となる。要約文ではto buy an SHSが節で表されている。このことから、「とても～なので...だ」というso poor等を書くことができる。(3)については、空欄の前後にある“So she became interested”と“as an engineer”から、「エンジニアとして働くことに興味をもつようになった」となるin working等を書くことができる。キーワードや指示語が指す内容を押さえながら読み、全文の内容を理解することを心がけることが大切である。様々なテーマや分野に関するまとまった長さの英文を読み、理解が不十分と思われる事項の確実な定着を図りたい。

4 与えられた条件に従い、まとめた内容を英語で適切に表現できるかをみようとしたものである。解答の仕方として、I agree.やI don't think so.のように、賛成か反対か自分の立場を明らかにしたうえで、〔記入上の注意〕に留意して、その理由が伝わるように40語以上50語程度の英語で書くように示されている。

AI(人工知能)を活用することで、例えば仕事を軽減したり生活を快適にしたりできると考えるならば、AI can help people a lot.のように理由を述べるのがポイントである。

誤答として、usefulをusufulやusefullと書く等、綴り字に関するものがみられた。また、名詞の単数・複数に関わる表現が不適切になったり、接続詞がないため不完全な文になったりしたものもあった。さらに、前置詞の不足や誤用、名詞・形容詞・動詞等品詞を混同した表現や、能動態と受動態を混合した使い方になっているものがみられた。そのほか、理由が明確でなかったり、個人的な利害のみに留まっていたり、無用な繰り返しがあるというものもみられた。

問題に正対し、適切な表現を用いて内容に一貫性のある文章を書けているかということに注意を払いたい。また、文のつながりや展開等にも意識を向け、自分の考えや気持ち等が読み手に正しく伝わる文章を書く力を充実させたい。